

高田松原津波復興祈念公園 市民協働ワークショップ

第1回 開催結果報告

～ 公園について知ろう ～

平成 27 年 10 月 20 日開催



県では、東日本大震災で甚大な被害を受けた陸前高田市高田松原地区を対象に、学識経験者等で構成する有識者委員会を設置し、本公園の基本設計の検討を進めています。平成 27 年 10 月 20 日に、地域の皆様に本公園の検討状況等についてお知らせし、より良い公園とするため、様々なご意見をお聴きする「高田松原津波復興祈念公園市民協働ワークショップ～第1回 公園について知ろう～」を開催しました。

ワークショップには**中学生から80歳代までの幅広い世代の方々、総勢約80名にご参加いただき**、全9班に分かれて、基本計画に関する質疑や、どのような公園にしたいかなど意見交換を行い、最後はグループ毎に発表を行いました。

■ワークショップの内容



1 <基本計画の概要説明>

ワークショップの開催にあたり、平成27年8月21日に策定公表した「高田松原津波復興祈念公園 基本計画」について、公園の基本理念・基本方針や空間構成、また**避難計画や公園内に残されている震災遺構等について説明**を行うと共に、公園に関連する復旧・復興事業として、**第一線堤・第二線堤の復旧、高田海岸の再生、高田松原の再生について説明**を行いました。

2 <グループワークショップ>

その後、班毎に自己紹介を行い、**復興祈念公園について思っていることや公園の説明を聞いて感じたこと。また、基本計画に対する疑問等**について意見交換を行いました。

3 <意見発表>

最後に、それぞれのグループで出された意見を、グループ毎に発表者を決め発表を行いました。主な意見は次ページに示したとおりです。



■第1回ワークショップ 参加者の皆さんからの主な意見

- ＜陸前高田らしさ＞ 高田らしさを活かした公園にしたい（海とのつながり、歴史文化等）。
- ＜市民の利用＞ 市民生活に根ざした、市民が日常的に利用しやすい公園にしたい。
- ＜祈りの場＞ 祈りの場は静かで行きやすい場所がよい。／祈りの方向のとらえ方は人それぞれ異なる。
- ＜築山＞ 景観的にはあった方がよい。／空間を仕切るだけであれば築山でなく植栽で十分。
- ＜安全確保＞ 人々が命を落とすことのないような公園を作ってほしい。／浸水区域内に公園を設置することは疑問。人が集まる施設はせめて浸水区域外に設置すべき。
- ＜一時避難＞ 万一逃げ遅れた場合の避難場所（タワー等）はあった方がよい（特に高齢者・身体障害者対応）。
- ＜避難方法＞ 車は大事な財産なので、車での避難も考えるべきではないか。
- ＜震災遺構＞ 遺構はできる限り現状のまま保存したい。／複数残すことの意義が分からない。
- ＜教訓の伝承＞ 東日本大震災の教訓を、後世まできちんと伝えられるような施設としたい。
- ＜伝承施設＞ リアルな体験ができる施設としたい。／一本松記念館等の他施設との役割分担が必要。
- ＜高田松原・海岸＞ マツ林の再生過程を楽しむ。／元の風景や利用環境（海水浴、散策等）を再生してほしい。
- ＜植栽＞ 高田が北限の種、高田の農業に関連ある種、花が楽しめる種などを植栽してはどうか。
- ＜交流・地域活性＞ 国内外から多くの人々が訪れ、観光や経済、市民交流などの活性化につながる公園にしたい。
- ＜市街地との連携＞ 公園ばかりに人が集まるのではなく、そこから市街地へ人が流れるような工夫が欲しい。
- ＜管理運営＞ 参加体験型のイベントを開催する。／公園内への民間の出店、公園による雇用創出など。



開催日：平成27年10月20日（火）

開催時間：18時30分から21時00分

開催場所：陸前高田市役所4号棟3階第6会議室

参加人数：約80名

